

令和5年度 北区立滝野川第五小学校自己評価に関する集計及び分析

1 自己評価の結果と分析

A…よくあてはまる B…ややあてはまる C…あてはまらない D…まったくあてはまらない

(1) 児童の結果から

①Aが5割以上の項目は14項目中13項目で、特に割合が大きかった項目(7割以上)は2つ。

10「あなたは安全に生活をしていますか」 73%

14「運動会や学芸会を楽しくできましたか」 84%

→学芸会は3年に一度の開催で前回はコロナで中止となったため6年ぶり。子供たちにとっては初めての経験であった。どの学年も学習の成果を発揮し、発表にも鑑賞にもとても楽しく取り組んでいた。

※低学年でAが7割以上は上記の他に5項目。()は高学年

1「滝五小は明るく笑顔あふれる学校と思いますか」 70% (62)

4「先生は分からないことを最後まで丁寧に教えてくださいませんか」 73% (58)

9「先生はいろいろなことを解決してくれますか」 74% (58)

11「あなたはすすんで体を動かすことができますか」 73% (57)

13「滝五小はまとまりのある学校だと思いますか」 73% (55)

②AとBを合計し90%以上の項目は14項目中11項目で、最も少ないものでも85%であった。

昨年度は1項目のみで、大幅に増加した。

※低学年は14項目全てが90%以上であった。

③CとDを合計し15%を超えた項目は1つあった。昨年度は4項目。

6「あなたは北コンをすすんで使い学習に取り組んでいますか」 15% (低9高26)

昨年度15%以上だったが、15%以下に減少した4項目

2「あなたは、学校へ行くのが楽しみですか」 19 → 13% (低11高17)

5「あなたは、自分からすすんで学習に取り組んでいますか」 15 → 10% (低9高11)

7「あなたは、自分からすすんであいさつをしていますか」 16 → 15% (低12高18)

12「あなたは体を動かすことが好きですか」 15 → 10% (低4高16)

→否定的な回答は全体的に減少しているが、依然として低学年で0.5～1割(6～15人前後)、高学年で1～2割(15～30人)の児童が否定的な回答をしていり。引き続き課題ととらえ個別の支援をして改善していきたい。

(2) 保護者の結果から

①Aの評価が5割を超えている項目は、18項目中3項目であった。

2「お子さんは学校生活を楽しんでいる」 52%

3「お子さんは楽しく学習し、学習内容を理解できている」 96%

14「行事や学校公開を積極的に行っている」 52%

→昨年度は学校行事の1項目のみであったが、学校生活全般と学習についてA評価が増えた。

②AとBを合計し90%以上の項目は、9項目であった。昨年度は5項目。

- | | |
|-----------------------------------|------|
| 1 「明るく、笑顔あふれる学校が営まれている」 | 97% |
| 2 「お子さんは学校生活を楽しんでいる」 | 93% |
| 3 「お子さんは楽しく学習し、学習内容を理解できている」 | 100% |
| 4 「教員は児童理解に努め、個に応じた指導を行っている」 | 90% |
| 5 「様々な～体験活動を取り入れるなど工夫した授業が行われている」 | 94% |
| 9 「お子さんは自分を大切に～友達の気持ちも考えて行動している」 | 90% |
| 12 「児童の体力を向上させる取り組みが行われている。」 | 90% |
| 14 「教職員が一体となって教育活動に取り組んでいる」 | 90% |
| 15 「行事や学校公開を積極的に行っている」 | 97% |

→学校行事については児童、保護者、教員全てが90%以上の肯定的評価で、学校行事が児童の学校生活を充実させ、保護者や教員も同様に評価している。

③CとDの合計が最も多かった項目は、

- 6 「北コンを有効活用し、積極的に学習に取り入れている」 31%

→児童も否定的評価がもっとも多い項目であり、今後はさらに教員の研修を重ねていくなどしてスキルを高め、授業の中で有効活用できるようにしていく。

- 7 「お子さんは自分から気持ちのよいあいさつをしている」 34%

→あいさつ隊の発足もあり、昨年44%からは大幅に増加したが、肯定的評価が最も低い項目である。児童も否定的回答が比較的多い項目である。教員は「あいさつ励行や言葉遣いについて継続的に指導している」と回答しており、今後も指導方法をさらに工夫していく。

(3) 教員の結果から

①AとBを合計し、90%以上の項目は17項目中14項目。

→児童の実態、保護者・地域の方々の願い、ご意見をしっかりと受け止め、常に向上意欲、課題意識をもって、家庭や地域からの協力を得ながら、さらによりよい教育活動を行っていきけるよう努めていく。

②CとDの割合が大きかった項目は、6「ICT研修に取り組み、北コンを有効活用した授業を行っている」22%であった。

→研修を重ね、有効活用できるスキルを高めていく。

2 児童・保護者・教員の全体考察

回答率は7割程度であったが、児童、保護者、教員とも全体的に肯定的評価が増加した結果となり、喜ばしいことである。今後はさらに教育活動を工夫改善し、全ての児童にとって「楽しい学校生活」「わかる授業」を実現できるように努めていく。また、礼儀・マナー・あいさつの励行・規範意識等の指導を継続し、保護者や地域の方が安心できる学校づくりを行う。アンケート回答率は100%に近づけていく。

◎継続または改善する内容と取り組み

1. 3つのあ「あいさつ・あつまり・あとしまつ」を継続して指導にあたる。
2. 心と体の健康を目指し健康教育の充実を図る。
3. 基礎・基本の一層の定着、ICTの有効活用を目指し、教員の指導力・授業力を高める。
4. 特別支援教育に係わる研修を計画し、教職員の資質向上を図る。
5. 礼儀、マナー、規範意識を身に付けさせるための生活指導を充実する。
6. 教育課程全体を通して思いやりの心を醸成する。
7. PTA行事や地域の行事の参加について、保護者や児童へ呼びかけを行う。
8. 適切・的確・迅速な情報発信により信頼される学校づくりに努める。